

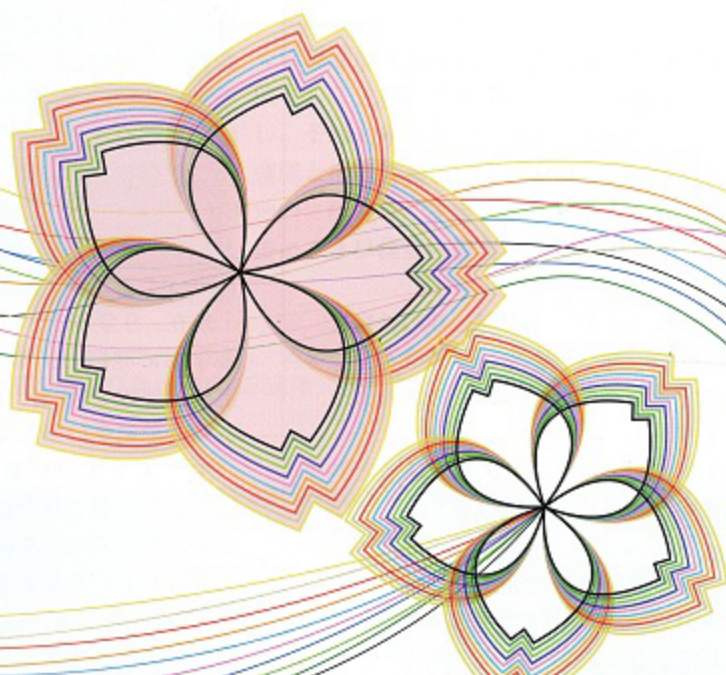
桜 生 工

2012 日本大学生産工学部校友会誌
Vol.42・生産工学部創設60周年記念

CONTENTS

ごあいさつ

生産工学部校友会会長 高野和雄	_____	2
生産工学部学部長 松井 勇	_____	2
写真で見る学部の歴史	_____	3
生産工学部創設 60 周年記念式典・祝賀会	_____	10
校友会から学部への寄付の贈呈	_____	11
平成 24 年度代議員総会	_____	12
OB紹介 門 万寿男さん(数理 昭和51年卒業)	_____	13



工科系校友会連絡会・ 工科系校友会支部長会	_____	14
第7回日進会	_____	14
母校を訪ねる会	_____	15
就職相談会	_____	15
学科ニュース	_____	16
箱根駅伝	_____	20



生産工学部校友会会長

高野 和雄

校友の皆様におかれましては、益々御清栄と御健勝の趣、心より御慶び申し上げます。

去る10月20日(土)、ホテルニューオータニ幕張に於いて午前11時より「日本大学生産工学部創設60周年記念式典」が挙行され、正午より記念祝賀会が開かれました。

式典の中で、大変僭越ではございますが、御祝いの御挨拶を述べさせていただきます。

まずは、生産工学部創設60周年、おめでとうございます。

私も一卒業生として、厳かにとり行われた記念式典を迎えられ、感無量の思いでありました。

私が在学した約50年前。生産工学部キャンパスには習志野の騎兵第14連隊の木造の兵舎がいくつが残っており、それらは教室として、あるいは事務棟や食堂として使用され、広場や運動場も広々としておりました。

今では考えられませんが、赤土混じりの砂嵐に悩まされながらも伸び伸びとキャンパスライフを満喫することができた事など、ついこの間のように思い出されます。

現在の生産工学部の姿は、隔世の感があると共に、まさに卒業生として誇りに感じるところでございます。

歴代の学部長、事務局長は勿論、特に御臨席を賜りました元学部長・副総長の大谷利勝先生、前学部長・副総長で現在常務理事の石井進先生、現学部長の松井勇先生の元、全教職員が協力し実践した種々の改革と更なる発展は、教育・研究そしてキャンパス環境に具現し、私共校友の多大なる誇りであります。

今後共、校友会活動を通して母校の発展に寄与したく尽力致す所存でありますので、倍旧の御指導、御支援の程、心よりお願い申し上げます。



日本大学生産工学部長
生産工学部校友会名誉会長

松井 勇

校友の皆様におかれましては、益々御健勝で御活躍のことと御慶び申し上げます。また生産工学部創設60周年にあたり、校友会から2,000万円の寄付を賜り、記してここに厚く御礼を申し上げます。

並びに、教育、研究、支援活動及び運営に対し、日頃より多大な御理解と御協力をいただき、深く感謝申し上げます。

生産工学部は、1952年、工学部(現・理工学部)神田駿河台校舎に、経営管理能力を備えた技術者の育成を理念として開設された工業経営学科を前身とし、1966年、生産工学部に改組され、現在に至っております。

工業経営学科開設を起点として、本年度創設60周年を迎え、産業界に最も近い工学系の学部として、創設以来我が国の産業界の発展に多大に貢献しております。

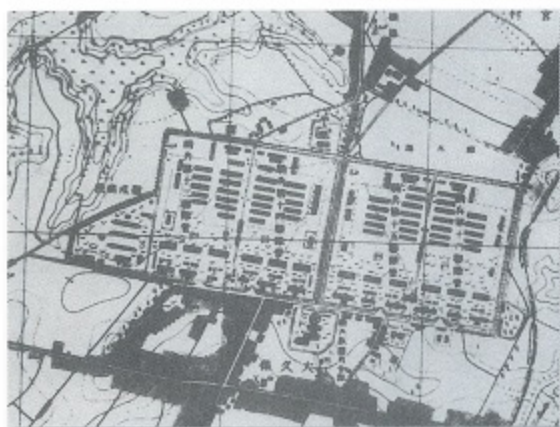
現在、9学科25コース、大学院7専攻を擁する学部へ発展し、学部学生6,702名、大学院博士前期課程298名、後期課程20名が、このキャンパスで勉学に励んでおります。

生産工学部の卒業生は、現在約75,000人に達し、各分野で社会に貢献しており、名実ともに我が国の生産工学を担っている学部として、自負しているところであります。

60周年記念式典、記念祝賀会の他、60周年記念事業の一環として、ギャラリー、工房(MIRAI Studio)、食堂(Creation Commons)、大ホール(Spring Hall)、教室を有する39号館が本年3月に竣工し、現在建設中の新学科棟は、2013年2月に竣工予定であります。

更なる生産工学部の発展のために、校友会・卒業生の皆様の倍旧の御支援、御協力を賜りたく心より宜しくお願い申し上げます。

生産工学部津田沼キャンパス



大正15年陸地測量部製版図にみられる生産工学部津田沼キャンパス付近。四つの騎兵連隊の区画があり現在の津田沼キャンパスはこの図の左から2番目の騎兵第14連隊である。現在津田沼キャンパスと旧習志野警察署との間のバス道路が正門前の路となっており4連隊、2旅団を統括する旅団司令部が存在していたことを示している。連隊の左端にある旧国立習志野病院は衛戍病院となっている。衛戍（えいじゅ）とは軍隊が長くその土地に駐屯するという意味である。この当時は人家も少なく街も街道沿いに限られている。4連隊ともほぼ同じ区画であり第14連隊（現・津田沼キャンパス）は隣接の連隊（現・東邦大学）とほぼ同形となっている。現在の津田沼キャンパスとその周辺の変化、発展は著しいものがある。



習志野騎兵連隊・戦車連隊

習志野は明治中期から日本陸軍の基地の町として発展した。騎兵4連隊に加えて鉄道の敷設と維持を任務とする鉄道連隊も駐屯していたが、中心となったのは移動手段として大量の馬匹を利用する騎兵連隊であった。しかし、それも時代とともに機械にかわり、騎兵連隊は戦車連隊と変身する。昭和9年に戦車連隊が津田沼校舎の敷地内に誕生し、8年後には戦車17連隊が続いた。前者は後にフィリピン、後者は中国戦線で激戦を経験している。

習志野騎兵旅団全景

一番手前は陸軍病院（現・千葉県済生会習志野病院）、隣のブロックが騎兵13連隊（現・東邦大学）・14連隊（現・日本大学生産工学部）、街道を挟んだ奥が騎兵15連隊（現・東邦高校）・16連隊（現・習志野の森）



習志野騎兵旅団司令部復元模型（あったか大久保ひろばに展示）

草創期のキャンパス (神田駿河台校舎)



旧1号館

自立期のキャンパス

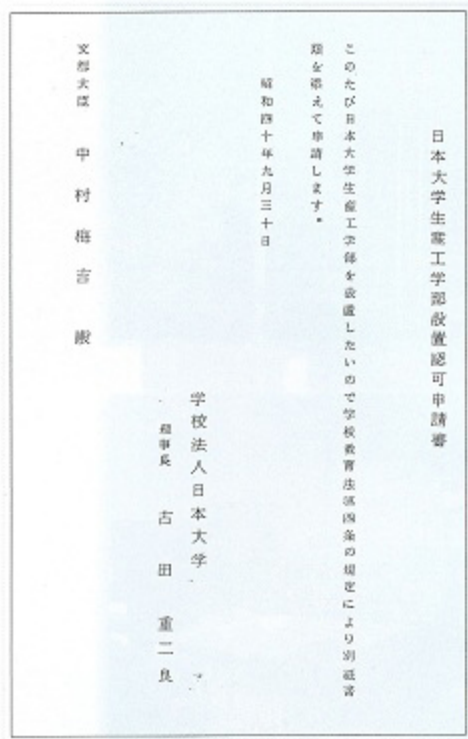


兵舎利用の教室棟



授業風景

発展と混乱期のキャンパス



正門の風景



正門前の風景



生産工学部全学集会

新たな発展期のキャンパス



図書館竣工



23号館竣工



1号館竣工



実籾キャンパス

改革と更なる発展期のキャンパス



100周年記念講堂竣工



東邦大学理学部との単位互換調印



米国ケントオハイオ州立大学と学部提携校として調印



ハイテクリサーチセンター竣工



学術フロンティアリサーチセンター竣工



生命工学リサーチセンター竣工



37号館竣工





韓国慶尚大学校工科大学と学術交流提携調印



中国科技大学と学術交流提携調印



39号館生産工学部60周年記念棟竣工

日本大学生産工学部創設 60 周年 記念式典・記念祝賀会

平成 24 年 10 月 20 日(土)、ホテルニューオータニ幕張において、生産工学部創設 60 周年記念式典と記念祝賀会が催された。

午前 11 時より行われた記念式典には、田中英壽日本大学理事長、大塚吉兵衛日本大学総長をはじめとする、副総長、常務理事、常任監事、理事、監事、各部科校の学部長、事務局長、校長、名誉教授、及び、生産工学部学部長、事務局長、事務四役、担当、副委員長、学科主任、専攻主任、各課長、及び生産工学部校友会会長、副会長、そして東邦大学理学部長を含め約 140 名が御列席された。

記念式典は佐々木修一生産工学部事務局長の開式の辞、国家斉唱、松井勇生産工学部長の挨拶、田中英壽日本大学理事長、大塚吉兵衛日本大学総長の式辞を賜り、高野和雄日本大学理事・生産工学部校友会会長の祝辞の後、校歌斉唱、そして小井戸純司生産工学部次長の閉式の辞が厳かに執り行われた。

12 時より行われた記念祝賀会は、小井戸純司生産工学部次長の開会の辞、松井勇生産工学部長の挨拶、高橋正東邦大学理学部長の祝辞、石井進日本大学常務理事、前生産工学部長・副総長の乾杯の御発声より和やかに、かつ盛大に宴が行われ、佐々木修一生産工学部事務局長の閉会の辞で、お開きとなった。尚、記念祝賀会には、記念式典に御列席された方々と共に、近隣の商店街の方々と生産工学部教職員、約 300 名が参会され、共に生産工学部創設 60 周年のお祝いと歴史と伝統、そして思い出に有意義な時を過ごされた。



式辞を述べられる田中英壽 日本大学理事長



式辞を述べられる大塚吉兵衛 日本大学総長



御挨拶される松井勇 生産工学部長



御挨拶、乾杯の御発声をされる石井進 日本大学常務理事

生産工学部校友会から生産工学部への 寄付の贈呈

生 産工学部創設 60 周年記念式典、記念祝賀会に先立ち 10 月 18 日（木）学部長室において、創設 60 周年記念事業募金へ 2,000 万円の寄付の目録が、高野和雄校友会会長から松井勇学部長へ贈呈された。

当日、校友会から石井進相談役（日本大学常務理事）、上田浩司副会長（マネジメント部会長）、渡邊昭廣監査委員長、大澤慶吉広報委員長、大学から佐々木修一事務局長、小井戸純司学部長、吉田博光事務局次長、河野通隆事務長、大沢英一経理長、佐藤雅信特任事務長が立会われた。

尚、校友会から学部への寄付は、平成 4 年 11 月に校友会奨学金基金への 5,000 万円、平成 9 年 11 月に校友会奨学金基金への 5,000 万円があり、今回の創設 60 周年記念事業募金への 2,000 万円を合わせて、総額 1 億 2,000 万円となった。



平成 24 年度 生産工学部校友会代議員総会

生産工学部校友会の代議員総会が6月16日(土)午後3時より市川グランドホテルで行われました。総会には161名の校友が参加し開催され、全ての議案が承認されました。

懇親会は、田中英壽理事長をはじめ、多数のご来賓を迎え、和やかな会が催されました。

事業報告 平成 23 年度

会社の状況(平成 23 年 3 月 31 日現在) 正会員 73,714 名 学生会員 6,889 名

●事業関係

年月日	内 容
23. 4. 1	平成 23 年度入学生に入学記念品を贈る
23. 5. 31	会計報告
23. 6. 30	平成 23 年度代議員総会
23. 7. 7	野村第 1 部科科長会へ協賛
23. 8. 27	工科若 4 学部校友会連絡会
23.10.20	「短生工」第 41 号発行
23.10.31	第 4 回協力企業コンペ参加(POBECI)へ祝賀金を贈る
23.11. 3	短生会、学生アソシエーションへ補助金を贈る
23.11. 3	「母校を愛する会」へ協賛
23.11.11	生産工学部 企業実習・就職企業懇話会へ協賛
23.11.20	留学生研修旅行協賛
24. 3. 1	新代議員説明会
24. 3.25	キャンパスカレンダー 2012 発行
24. 3.25	平成 23 年度年報 (14 巻) に校友会費を贈る

●会議関係

年月日	会議名	内 容
23. 4.21	監査委員会	23 年度決算報告のまとめ
23. 4.26	名簿委員会	名簿システムの仕様不明について
23. 5.31	監査委員会	23 年度決算報告、23 年度予算案
23. 5.25	運営協議会	23 年度決算報告、23 年度予算案、総会について
23. 6. 2	幹事会	23 年度決算報告、23 年度予算案、23 年度について
23. 6.18	代議員総会	23 年度決算報告、23 年度予算案
23. 7. 4	名簿委員会	引継ぎ、名簿管理システムについて
23. 7. 5	広報委員会	引継ぎ、短生工について
23. 7.14	企業委員会	引継ぎ、企業実習実地会、入学記念品
23. 7.19	財務委員会	引継ぎ、会計処理について
23. 7.22	事務委員会	今年度の予定について
23. 7.28	ボランティア委員会	生産実習、就職支援について
23. 8. 5	監査委員会	上半期の決算について
23. 9.15	運営協議会	各校を巡る会について
23.10.30	幹事会	次期総会開催について
23.11.17	運営協議会	法人顧問協議会、母校を愛する会の役割分担について
24. 1.30	運営協議会	新幹会
24. 2.26	幹事会	新代議員説明会、校友会費について
24. 3. 1	新代議員説明会	校友会の概要
24. 3.15	運営協議会	関係者の仕合せ不満足率について
24. 3.22	広報委員会	短生工について

●対外関係

年月日	内 容	出席者
23. 6.25	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
7. 1	日 本 大 学 校 友 会 総 会	出席
7. 5	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
7. 7	野 村 第 1 部 科 科 長 会	出席
7. 10	短 生 会 総 会	出席
7. 14	日 本 大 学 校 友 会 総 会	出席
7. 18	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
7. 21	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
7. 22	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
7. 23	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
8.19	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
8.26	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
8.27	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
8. 1	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
8. 9	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
8.10	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
8.13	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
8.25	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
8.30	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
10. 1	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
10. 3	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
10. 4	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
10. 5	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
10.14	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
10.15	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
10.21	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
10.22	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
10.29	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
10.30	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
11. 3	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
11. 9	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
11.11	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
11.12	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
11.14	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
11.19	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
11.20	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
11.28	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
12. 1	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
12. 3	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
12. 4	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
12.10	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
12.16	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
24. 1. 5	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
1. 8	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
1.11	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
1.18	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
2. 8	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
2. 9	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
2.16	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
4. 9	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
4. 8	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
4.21	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
5. 6	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
5.11	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
5.12	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
5.22	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
5.22	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
5.23	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
5.29	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席
6.31	生 産 工 学 部 校 友 会 総 会	出席

議員総会 懇親会



高野和雄生産工学部 校友会会長



代議員総会

収支報告 平成 23 年度

経常収支計算書

自平成 23 年 4 月 1 日 至平成 24 年 3 月 31 日

1. 収支計算の部 (注: 円換算/単位: 円)

収 入 の 部	収 入 項 目	平成 23 年度 予 算	平成 23 年度 決 算	差 額	備 考
収 入 計 算	収 入 計 算	81,156,912	77,528,254	3,628,658	
収 入 計 算	収 入 計 算	81,156,912	77,528,254	3,628,658	

2. 支出の部

支 出 の 部	支 出 項 目	平成 23 年度 予 算	平成 23 年度 決 算	差 額	備 考
支 出 計 算	支 出 計 算	77,528,254	73,899,596	3,628,658	
支 出 計 算	支 出 計 算	77,528,254	73,899,596	3,628,658	


 OB 紹介
 

OSMOS 技術協会 事務局 門 万寿男 (数理工学科 昭和51年卒業)

「エンジニアリング会社入社後31年の流れ」

大学院を卒業後、エンジニアリング会社の日揮に就職しました。配属先は原子力機械設計部となり大学で学んだ分野と全く違う原子力施設や再処理施設の容器や熱交換機、配管を設計する、まさに機械工学の範疇に属す部署でした。当然のことですが戸惑いの連続でした。とにかく一日も早く仕事を理解し、役に立つエンジニアになろうと必死で溶接や機械加工のことを勉強した事が思い出されます。そんな中でも役に立ったことは数理工学科で学んだコンピュータープログラミング技術と、学部、大学院を通して学んだ構造解析、振動工学、地震工学の知識でした。当時コンピュータープログラミングができて構造解析、耐震設計が分かるエンジニアは少なく、入社したばかりの新人の私に機器の耐震計算設計システムの開発を任せられました。この開発を何とかこなし、評価されたことがこの後の私のエンジニア人生に大きな影響を与えています。このシステムは改善を重ねながら現在も使われており、私の自信作となっています。この時ほど学部、大学院で学んだことの有り難さを実感したことは有りませんでした。

その後、原子力以外の仕事も担当するようになり、食品生産工場の生産ラインの計画、繊維産業の自動化システム、メタルマイニング、宇宙関係の仕事など多種多様な仕事を経験し、業種が変わるたびに色んな勉強をさせられました。

その中で思い出深い仕事としては、宇宙関係の仕事で、宇宙ステーションでの長期滞在人のために無重力状態でシャワーを浴びるためのシャワーシステムの開発を担当した事です。当時は設計チームのマネージャーを任されており部下と一緒に無重力状態でのシャワーシステムの開発に頭を悩まされました。考案した試験装置で無重力を作り出すことのできる放物飛行試験によりその機能確認をする機会を得ることができ、設計の正しさを実証することができた時は部下と共に感激したことを覚えています。宇宙の仕事をする機会が与えられた事によりロシアの宇宙関係機関であるエネルギーにも出張することができ、共産圏の人のビジネスルールの違いを痛感したことをよく覚えています。またその際、実際に使用された宇宙から地球に生還した煤まみれの宇宙船に触れ、それに乗ることもできて感激したことが思い出されます。

12年ほど前から原子力とは全く異なる、光ファイバーセンサーを用いた構造物のモニタリングシステムをフランスから導入する業務を担当し、今度は土木の世界に飛び込んでいます。おかげでフランスにも何度か出張する

機会を得てバリの空気を満喫するチャンスもいただきました。この技術は、近年社会的な問題となっている橋梁、トンネル、ダムなどの老朽化が進行した社会インフラ構造物の健全性を遠隔監視するシステムであり注目されている技術です。このため、日本大学工学部の岩城教授や芝浦工業大学の勝木教授、東京理科大学加藤准教授、東大名誉教授の魚本先生(現・土木技術研究所理事長)など多くの先生の指導を受けながら光ファイバーモニタリングシステムを適用したコンクリート構造物の健全性評価技術に関する研究を進めています。

またごく最近では、再生可能エネルギーの一つである太陽光発電所(メガソーラー発電所)の建設計画、設計にも関与しており慌ただしい毎日を送っております。

エンジニアリング会社に身を置く者は常に新しい技術を取り入れる姿勢が非常に重要で日々勉強の連続です。これを支えてくれるのは学生時代を生産工学部の数理工学、建築工学と異分野の境界領域で勉強させていただいた賜物だと思っています。

以上、長くなりましたが母校を卒業しエンジニアリング業界に31年身を置いている卒業生の報告です。

最後に、最近、日大からの入社が無く是非、後輩の弊社への入社を願っています。



工科系校友会連絡会・工科系校友会支部長会

第30回日本大学工科系校友会連絡会、及び、第15回日本大学工科系校友会支部長会が、平成24年8月25日（土）、生産工学部39号館6階スプリングホールで開催されました。

4学部校友会幹事と北海道から九州までの各支部長85名が参会され、各支部の現状報告等がなされました。

懇親会は2階食堂（Creation Commons）で行われ、来賓として松井勇生産工学部長、滝戸俊夫理工工学部長、出村克宣工学部長、草間貞葉学部長、石井進常務理事（生産工学部校友会相談役）、佐々木修一生産工学部事務局長、三井直紀工学部事務局長、塚本一道薬学部事務局長をお迎えし、和やかな祝宴となりました。



第7回日進会（教職員・校友会合同）ゴルフコンペ

平成24年10月4日（木・創立記念日）、真名カントリークラブに於いて、生産工学部教職員と校友会幹事等で合同ゴルフコンペを開催致しました。

競技方法は18ホール新リペア方式（同ネットは年長者上位）で行われ、個人戦優勝

は鈴木孝司さん（校友会顧問・前生産工学部事務局長）、準優勝は山下至さん（建築部会）、3位は吉田博光さん（生産工学部事務局次長）でした。団体戦は生産工学部教職員（グリーン会）チームが優勝し、和やかに表彰式と祝宴が催されました。



母校を訪ねる会

生産工学部では毎年恒例となっています桜泉祭(旧泉祭)の期間中(本年のテーマ: WAVE)に「母校を訪ねる会」を催しております。

本年は11月3日(土)、60周年記念棟(39号館)2階食堂(Creation Commons)において、卒業51年(昭和37年卒業)、卒業41年(昭和47年卒業)、卒業31年(昭和57年卒業)、卒業21年(平成4年卒業)、卒業11年(平成14年卒業)を経た卒業生

を御招待し、「母校を訪ねる会」が開催されました。

卒業生達は、在学当時の先生方を交えた教職員との懇談や、お互いの旧交を温めると共に、キャンパス環境の発展に驚かれたり、桜泉祭を懐かしむ一時を過ごされました。

尚、卒業生約110名、教職員約60名が参会され、当時のエピソードや思い出話に花を咲かせ、和やかな会となりました。



就職相談会

初の催しとなる校友会主催の就職懇談会が、桜泉祭開催中の11月3日(土)10時より16時まで、39号館1階ギャラリーにおいて開かれました。

生産工学部就職指導委員会の協力を

得て、校友会企画委員会の企画の元、ボランティア委員会を中心となり、学生達の就職に関する相談を受けました。会に参加した相談学生は約60名、対応した校友は18名、受付等相談会幹事は15名でした。



機械工学科

学生数 学部 867名 大学院（修士）73名 大学院（博士）6名

人事 4月に平林明子助教が機械工学科に着任されました（教員22名、内女性2名）。

トピックス 機械工学科の特色づくりの一環として3年前から始まったパイロットスクールのプログラムが今年も夏休みを利用して米国で開催され、6名が参加しました。昨年度までに学生8名がパイロット免許を取得しました。●国際交流として、多くの大学院生が国際会議で発表しています。海外からのインターンシップ研修生も積極的に受け入れており、英語でのコミュニケーション能力向上だけでなく、



研究活動に励む平林明子助教



日本機械学会関東支部第18期総会講演会のスタッフ

研修生に刺激を受けて研究に取り組むことで国際的なセンスを身につける機会となっています。●博士後期課程機械工学専攻に74歳の長見茂氏（株式会社ファソテック 会長）が入学しました。長見氏と学生達は相互に刺激を与えあって研究室は活性化しています。●日本機械学会関東支部第18期総会講演会（実行委員長：湯野一教授）が津田沼キャンパス37号館で開催されました。特別講演「自動車における安全技術の変遷と将来展望」を景山一郎教授が行いました。講演数は卒研発表会を含め約600件、来場者は約2,000人でした。

電気電子工学科

学生数 学部 782名 大学院（修士）34名 大学院（博士）1名

トピックス 中根偕夫先生が論文賞を受賞 ●本学科の中根偕夫先生がアメリカに本部を置く IEEE (The Institute of Electrical and Electronics Inc.) の James R. Melcher Prize Paper Award 2011 を受賞されました。この賞は IEEE Transaction on Industry Applications に掲載された論文の中から審査により、特に優秀とされた論文に授与されます。受賞論文では静電気の霧化技術で生成効率が低かった微細な霧の生成効率を50倍改善するノズルシステムが提案されました。この技術は電気電子分野ではプラズマ工学に属し、重要な技術分野です。中根先生の今後のご活躍が期待されます。ものづくりへの取組み ●本学科ではものづくりを学生に学ばせるための取り組みとして、実験の内容を工夫しております。

例えば実験4では、学生が実際の現場で使われている回路シミュレータ (Spice系) を使った回路設計や回路製作、評価を行っています。また、従来の実験では見られなかった倒立2輪制御ロボットやマルチメディア情報の信号処理と伝送など、新しいテーマを積極的に取り入れています。



IEEEから授与された賞状



学生実験の様子

土木工学科

学生数 学部828名 大学院（修士）31名 大学院（博士）3名

人事 平成24年度学科運営では工藤勝輝教授が主任、秋葉正一教授が専攻主任に再任されました。また、学部運営では落合実教授が学生担当、澤野利章教授が入試検討委員長、秋葉正一教授が入試実施委員長に任命されています。本年9月には木田哲量教授、河合乳茲教授が定年のためご退職され、永年にわたる学部・学科運営へのご貢献に感謝申し上げます。

トピックス 恒例となっております春の1年生オリエンテーションでは東駿河湾環状道路の工事現場を、夏の3年生生産実習（現場研修）では東京都南部地区東京港臨海道路や東京臨海広域防災公園、茨城港周辺の災害復旧工事現場を見学しました。今年度の現場見学におきましても校友諸兄の温かなご支援により、学生が実際の現場に学ぶ貴重な機会を得ることができました。有難うございました。今後も実習や就職、OB講演会など、学生のキャリア支援に何卒ご協力を賜わりたくお願い申し上げます。



3年生生産実習現場見学(現場研修)



1年生オリエンテーション

建築工学科

学生数 学部 861 名 大学院（修士）59 名 大学院（博士）4 名

人事 学科主任に浅野平八教授が再任、専攻主任に廣田直行教授が選任されました。川村政史教授が定年退職されました。永年にわたる教育・研究ならびに学部の運営のためにご尽力されました。新任教員として、下村修一助教（地盤工学）が4月に着任されました。

訃報 藤谷陽悦教授（建築史）がご逝去されました。

トピックス 創設時に故・宮脇檀先生が塾長を務めた居住空間デザインコースは、昨年 20 周年を迎えた。これを記念して、コースの理念や教育方針などをまとめた小冊子『「眼を養い、手を練れ」居住空間デザインコース 20 年の歩みとこれから』をまとめた。●松井・永井研究室の大学院生 2 年・野村侖生君は、「第 11 回韓国・日本建築材料施工 JOINT SYMPOSIUM」において、優秀論文賞を受賞しました。また日本建築仕上学会主催「日本建築仕上材料技術・デザイン競技 2012」において、ゼミナール生（3 年）の那須佑樹君が優秀賞を、成田翔平君・野地高史君・山口徹君の 3 名が佳作を受賞しました。●岩田研究室の大学院生 1 年・安部佑介君は、第 9 回全国合同卒業設計展「卒、11」において、特別賞を受賞しました。また中島紀子君は、第 12 回埼玉建築学生卒業設計展において、特別審査委員賞を受賞しました。なお、学科の最新情報はホームページ（[http:// http://www.arch.cit.nihon-u.ac.jp/](http://http://www.arch.cit.nihon-u.ac.jp/)）をご覧ください。



「第 11 回韓国・日本建築材料施工 JOINT SYMPOSIUM」
優秀論文賞：野村侖生君（大学院 2 年生）
「光と影による凹凸仕上面の見え方 - 幾何学立体的輝度分析 -」

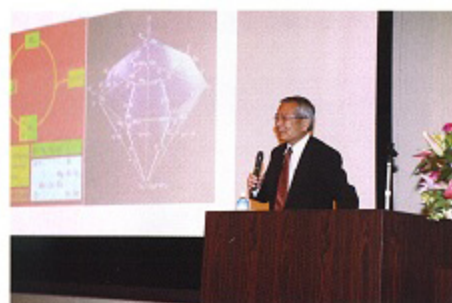


「日本建築仕上材料技術・デザイン競技 2012」
優秀賞：那須佑樹君（学部 3 年生）
「サーモクロミズムの仕上げ剤」
佳作：成田翔平君、野地高史君、山口徹君（学部 3 年生）
「House of moss」

応用分子化学科

トピックス 本年度は生産工学部創設 60 周年となるため様々な企画が計画されています。応用分子化学科ではその記念として 5 月 23 日（水）に 2010 年にノーベル化学賞を受賞された根岸英一先生をお招きし、特別講演会を開催いたしました。先生は一般に結合が困難とされる有機物の炭素同士をパラジウムなどの触媒を用いて結合させることに成功し、有機合成化学に貢献されました。当日、体育館には本学部学生を中心に 1,000 人を超える参加者が整然と集まり、松井学部長のご挨拶、清水先生による紹介に引き続き、根岸先生の熱のこもったお話を予定時間を延長して拝聴することができました。講演終了後には大学院生からの専門的な質問にお答えられました。

一方、応用分子化学科の JABEE コースは早くも 11 年目の入学生を迎えており、9 月 1 日には新基準に向けて外部評価委員会が開催されました。企業でご活躍の委員からは大学には気づきにくい貴重なご意見を伺うことができました。当学科の JABEE コースは学科全体の教育力向上に大いに貢献しており、新しい 1 歩を踏みだしました。



特別講演会での根岸先生



懇親会での外部評価委員（前列）と応化スタッフ

マネジメント工学科

トピックス マネジメント工学科は、平成25年度からコース名称を変えた「ビジネスマネジメントコース」、「経営システムコース」の他、新たに第3の柱として「フードマネジメントコース」が加わります。「ビジネスマネジメントコース」ではビジネス状況に対応した課題を解決できるようなビジネスパーソンや経営者の育成をめざします。「経営システムコース」では企業における問題発見および解決能力を身に付けた人材の育成をめざします。「フードマネジメントコース」ではフードサービス業界に特化し、その商品開発、供給体制の改善、和食文化のグローバル展開のなかで中核的人材の育成をめざします。

●**柴直樹教授**:長期派遣研究員としてサリー大学から帰国されました。平成23年8月から約1年間、長期派遣研究員として主に英国ロンドン郊外にあるサリー大学に派遣される機会を得ました。当地では、社会シミュレーション研究センター長であるギルバード(N.Gilbert)教授の研究室に滞在し、シミュレーションモデルの正当性に関する研究を行いました。また、英国滞在中には、他にも4つの大学を訪問し、情報システム研究の著名な研究者と情報交換することができました。今回の経験を、今後の研究・教育に活かされると思います。



マネジメント工学科のコース体制

マネジメント工学科は、平成25年度より3コース体制となり、新たに「フードマネジメントコース」が加わります



サリー大学のキャンパス入り口にある大学シンボル前にて

数理情報工学科

学生数 学部700名 大学院(修士)33名 大学院(博士)3名

人事 平成24年度の学科主任は細川利典教授、専攻主任に松田聖教授が任命されました。また、3月に大澤慶吉准教授が退職されました。永年にわたり数理情報工学科の発展に貢献してくださり、本当にありがとうございました。

トピックス 平成23年度後期 ●11月、古市研究室の学生が、国際会議Interactive Tabletop and Surfaces(ACM主催、神戸市で開催)で研究成果をデモンストレーション展示しました。●11月、細川研究室大学院(修士)2年の藤原浩顕君と山崎絃史君が、国際会議The 12th Workshop on RTL and High Level Testing(IEEE主催、インド・ジャイプールで開催)でそれぞれの研究成果を発表しました。●12月、第19回全国高等学校ロボット競技大会(鹿児島市で開催)で、岡研究室の学生が開発したロボットを展示しました。●1月、爆笑問題(爆笑問題のにっぽんの教養、NHK総合)に、古市昌一教授と研究室の学生が出演しました。●1月、岡研究室大学院(修士)2年の木林龍一君が、国際会議International Symposium on Artificial Life and Robotics(別府市で開催)で研究成果を発表しました。

●3月、岡研究室3年の大河原南美さんがG-ARTS協会賞を受賞されました。

●3月、見坐地研究室大学院(修士)2年の内田基城君が(社)自動車技術会より「大学院研究奨励賞」を授与されました。

●3月、公益社団法人自動車技術会関東支部学術講演会で、見坐地研究室4年の鈴木雄祐君、大学院(修士)2年の内田基城、大学院(博士)2年の高橋亜佑美君、見坐地一人教授がベスト・ペーパー賞を受賞しました。

●3月から柳窪孝也准教授が日本大学長期派遣研究員としてカナダのウォータールー大学マルチメディア・コミュニケーション・ラボに滞在しています。

平成23年度前期 ●4月、新入生オリエンテーションで、教員19名と新入生164名とで山梨県の清里・八ヶ岳へ行きました。

●4月、ピアサポートシステムを開始しました。4年生または大学院生が1年生の学生生活やプログラミングをはじめとする学習相談を実施しています。

●6月、見坐地一人教授が自動車技術会フェローの称号を授与されました。

●7月、千葉県立現代産業科学館にて古市研究室が「シリアスゲームで創る未来の乗り物と社会」と題して展示を行いました。

●8月、韓国シリアスゲームフェスティバル(京畿道・城南市で開催)にて、古市昌一教授がシリアスゲームの開発法について講演を行いました。



「爆笑問題のにっぽんの教養」に出演



オリエンテーション風景

環境安全工学科

トピックス 今年完成年度を迎えた環境安全工学科では、4月1日に新任の亀井真之介助手を迎え入れた矢先、初代学科主任越川茂雄教授が4月5日に急逝された。激動で始まった平成24年度だが、8月3日に各研究室に配属した1期生の4年生136名を対象に、今年度から供用された工務棟39号館405及び406教室にて、「平成24年度環境安全工学科卒業研究中間発表審査会」をポスタープレゼンテーション方式で開催した。環境安全工学科の教育は環境・安全・エネルギーに関するものであり、その研究内容は工学を網羅する複合広領域である。そこで、教員はもとより学生にも、広範囲な学問領域を相互理解させるために、他学科では類を見ない中間発表審査会を開催した経緯がある。中間発表審査会には環境安全工学科15名の教員の他、関連する土木工学科及び応用分子化学科の先生方も多数参加し、緊張する学生を前に、活発な討論が展開された。翌8月4日、5日のオープンキャンパスⅡ及びⅢでは、各研究室の中間発表ポスターを掲示して1期生が来訪した高校生並びにその父母へ研究内容を説明し、好感がもたれていました。



中間発表審査会開始前の緊張の様子



中間発表審査時の様子

創生デザイン学科

学生数 4年生132名、3年生123名、2年生137名に1年生（四期生）143名が加わり、総勢535名となりました。
人事 学科主任：星野和義教授。今年度、新任教員として木下哲人助教が着任され、デザインの基礎となる科目の創生デザイン演習Ⅰ、ⅡおよびⅢなどを担当されています。今年度昇格された教員は、中澤公伯助教が准教授に昇格されました。
トピックス 夏期に生産実習を行いました。校友の皆様方のご協力で昨年同様、希望者全員が生産実習を行うことが出来ました。ここにお礼申し上げます。また、就職先が未定の学生もおりますので、引き続き校友の皆様のご支援をお願い申し上げます。平成25年2月に新学科棟（環境安全工学科と創生デザイン学科）が竣工します。平成25年4月から学生、教員とも新たな気持ちで再出発します。●川岸梅和教授が、日本建築学会主催第13回提案競技「美しくまちをつくる、むらをつくる」で「風格を古河の街に展開する」を出展し、優秀賞を受賞されました。●山家哲雄専任講師が、第5回日中韓照明カンファレンスで「和あかりを味わう」を発表し、研究奨励賞を受賞されました。●進藤 篤君が、第76回新制作展に「浸食する輪郭」を出展し入選しました。



第76回新制作展入選「浸食する輪郭」
進藤 篤君



四期生集合

教養・基礎科学系（旧一般教育教室）

実初校舎に毎年1年生1,700人ほどを受け入れています。実初校舎の使用は1年間だけの学生がほとんどですが、新生活に心躍らせている学生を受け入れるのですから、教員もその心づもりで、良いスタートがきれるようにと願っています。数年来、実施している「実初イベント」は、歓迎会を兼ねたビンゴ大会やクリスマスパーティなどをシーズンごとに織り込んで、新入生が学生生活になるよう配慮し、年ごとに活況を呈しています。また、建物などの設備が醸し出す雰囲気も重要です。実初校舎でも、5号館と新食堂が建て増しされて以降、校舎内の整備は着々と進みつつあります。おかげさまで、今年度はグラウンドの芝生を整備することが出来ました。授業に、サークル活動に頻りに使用されるグラウンドです。緑があざやかに変わったグラウンドで、思い切り汗を流して欲しいと思います。グラウンド脇から高くそびえる機械棟のタワーには、「生産工」の文字と「N」のロゴが鮮やかに見えています。これは京成線の車内からもよく見え、生産の知名度をあげることに役だっていると思いますが、同時に、グラウンドで汗を流す学生の帰属意識を高めてくれることと思います。



実初正門から5号館

N. 日主創道
日本大学

第89回 箱根駅伝

北澤洋一(経済学部4年)



中田裕成(法学部4年)

櫂



佐藤佑輔(経済学部4年)

106万人の仲間と共に
走れ日大! 思いは一つ

倉田貴大(経済学部4年)

祝! 第89回東京箱根間往復大学駅伝競走 83回目出場!

日本大学校友会
スポーツ振興特別委員会

<http://www.nichidai-sports.jp>

箱根駅伝応援サイト

<http://www.nichidai-ekiden.jp>

【日本大学保健体育審議会 所属競技部全31部】

陸上競技部	弓道部	体操部	スケート部	7×7フットボール部
棒球隊	卓球部	射撃部	バスケットボール部	フェンシング部
水球部	馬術部	重量挙げ部	バレーボール部	ゴルフ部
ボート部	自転車部	ラグビー部	レスリング部	バドミントン部
柔道部	テニス部	ボクシング部	サッカー部	ハンドボール部
剣道部	空手部	スキー部	ヨット部	応援リーダー部

寄付のお願い

口座番号 00190-7-585685 日本大学校友会スポーツ振興特別委員会

日本大学生産工学部校友会誌「桜生工」

発行：日本大学生産工学部校友会
住所：千葉県習志野市泉町1-2-1
TEL：047-476-1140
FAX：047-476-3510
HOMEPAGE：<http://www.asahi-net.or.jp/~wa3k-kkt/index.html>
E-MAIL：wa3k-kkt@asahi-net.or.jp

印刷：株式会社 東工
住所：東京都北区赤羽北2-2-12
TEL：03-5963-5702
FAX：03-5963-5704
編集：日本大学生産工学部
校友会広報委員会